

機能評価表案

基本コンセプト		(仮)賑わいふれあう“ホットストップ”													
機能(戦略・施策)		ウエイト	① 高知の若者と都会などから移住してきた高齢者などが交流できる機能	② 若者に魅力ある働く場をつくる	③ 教育機関の拡充や連携を図る機能	④ 若者の文化や街の情報を発信する機能	⑤ 高知の城下町を再現する機能	⑥ 観光客のリピーターを増やすことができる機能	⑦ 街への移動に不便を感じている高齢者や障がい者、学生等が利用できる機能	⑧ 日曜市やよさこい祭りを充実、発展させるための機能	⑨ 家族で訪れて、子どもが安全に遊ぶことができる機能	⑩ 郊外の大型商業施設にはない機能	⑪ 広場機能		
市民アンケート調査における例示			市民学生交流プラザ、移住者向け地域交流拠点など	誘致企業向けオフィスフロアなど	県内大学等の連携、サテライト教育研究施設など	ネット配信スタジオ、メディアセンター、ミニシアターなど	古い城下町を再現した風情ある商業施設など	観光総合案内、地場産品を取扱う物産店など	外出支援サービスを行う施設、駐輪場など	よさこい体験施設、日曜市散策休憩スペースなど	ものづくりやお仕事等の体験型テーマパーク、体を動かす屋内遊び場など	ペットモール、キッチンスタジオ、体験型スポーツ施設など	災害発生時に避難できる広場など		
市民意見聴取結果	ア. 市民アンケート	40	全体10位(36.0%) 当事者である若者(20代)からの支持も低い(11位)	全体8位(42.2%)	全体9位(40.8%)	全体7位(43.2%)	全体6位(43.7%)	全体2位(58.4%) 男性では1位と支持が高い	全体5位(45.8%)	全体4位(55.1%) 全体5位と比較し、10%近く差もあり、高齢者の支持も高い	全体3位(56.8%) 子育て世代(30代、40代)及び15歳未満の子どもがいる世帯では1位	全体11位(31.7%) ふさわしくない機能であるとの意見が飛びぬけて高い	全体1位(62.9%)		
	イ. 県外出身者の意見(転勤者)	5	10位(20.0%)	1位(73.3%)	7位(33.3%)	3位(40.0%)	7位(33.3%)	2位(46.7%)	11位(13.3%)	7位(33.3%)	3位(40.0%)	3位(40.0%)	3位(40.0%)		
	ウ. 県外出身者の意見(学生)	5	11位(20.0%)	9位(26.7%)	8位(40.0%)	2位(80.0%)	9位(26.7%)	5位(60.0%)	1位(86.7%)	3位(73.3%)	4位(66.7%)	6位(53.3%)	7位(53.3%)		
中心市街地活性化基本計画との関連性	エ 基本方針との整合性	(1) 街なか暮らしの魅力強化 多様な人材・世代が快適に、楽しく暮らせる街なか	10	多様な世代が交流することにより、生きがいややりがいが増え、街なかで暮らす魅力が向上する	働く場を作ることにより、街なか居住が促進される可能性がある	教育機関の拡充を図ることにより、街なか居住が促進される可能性がある	街の情報などを発信することにより、街なか暮らしの魅力の向上が見込める	生活利便施設ではなく、居住環境の向上は見込めないが、取扱商品により生活の質を向上させることも可能	生活利便施設ではなく、居住環境の向上は見込めない	高齢者をはじめとする多様な世代が快適な都市生活を営むに必要な居住環境の向上が期待できる	市や祭りは観光資源としては魅力があるものの、街なか暮らしの向上には直接寄与しないが、生活市としての側面が期待できる	生活利便施設ではなく、居住環境の向上は見込めない	生活利便施設ではなく、居住環境の向上は見込めない	居場所や出会いのきっかけとなり、暮らしをより豊かにできる可能性がある	
		(2) 土佐の気風や歴史・文化性の活用 土佐のさらさらパワー、歴史性・文化性を生かした新しい生活文化を発信する街なか	10	都会からの新しい考え方と土佐独自の気風や歴史・文化性が融合し、新しい生活文化が生み出される可能性がある	歴史性・文化性は見込めない	教育機関の連携などにより、新しい生活文化が発信される可能性がある	若者の新しい文化と高知独自の歴史・文化を発信することができる	武家屋敷跡の歴史性・文化性を活かした新しい生活文化を発信することができる	高知独自の歴史・文化を活用し、新しい生活文化を発信することができる	歴史性・文化性は見込めない	歴史を持つ日曜市と全国的に知名度の高いよさこいを活用することで、高知らしい文化を発信することができる	伝統産業の体験など施設の内容によっては、歴史・文化の継承が見込める可能性がある	歴史性・文化性は見込めない	歴史性・文化性は見込めない	広場の利用方法によっては効果が見込める
		(3) 街なか地域資源を楽しめる環境づくり 街なかの魅力、誰もが快適に楽しく、回遊して満喫できる環境が整った街なか	10	多様な世代が街なかで時間を過ごしたくなるような環境ができる可能性がある	街なかの魅力や誰もが楽しめる機能ではない	街なかの魅力や誰もが楽しめる機能ではない	情報発信することにより、市民や観光客など、幅広い層が楽しみ、利用できることから回遊性を向上させる	市民、観光客など幅広い層が楽しみ、回遊性の向上が見込める	観光客の増加により、にぎわい、歩行者通行量増、回遊性の向上が見込める	高齢者や障がい者などの様々な市民が安心して街なかを回遊することができ、来街しやすい環境の向上が期待できる	来街者、特に観光客の増加により、にぎわいや回遊性の向上が見込める	子育て世代などが中心市街地へ訪れるための新たな地域資源として期待できる	多様な世代が中心市街地を利用するきっかけとなり、回遊性の向上が見込める	自由に活用できる空間を作ることにより、都市の豊かさを体感できる	
	オ 評価指標への効果	(1) 中心市街地の居住人口 現況値(H23) 5,017人 ↓ 目標値(H30) 5,145人	5	多様な世代が利用でき、移住が促進される可能性がある	働く場を作ることにより、街なかへの居住人口が増加する可能性がある	学生等の街なかへの居住人口が増加する可能性がある	街の魅力向上にはつながらないが、居住人口の増加は期待できない	大幅な居住環境の向上は見込めないため、居住人口の増加は期待できない	生活利便施設ではなく、居住人口の増加は期待できない	高齢者や障がい者などの居住人口が増加する可能性がある	大幅な居住環境の向上は見込めないため、居住人口の増加は見込めない	生活利便施設ではなく、居住人口の増加は見込めない	生活利便施設ではなく、居住人口の増加は見込めない	中活エリア内には一定の都市公園が整備されているため、直接居住人口の増加にはつながりにくい	
		(2) 歩行者通行量 現況値(H23) 103,249人/2日・14地点 ↓ 目標値(H30) 105,916人/2日・14地点	5	交流拠点を整備することにより来街者の増加は見込めるが、対象者は限られている	街なかへ勤務する者の回遊は見込めるが、時間帯や人数に限られる	学生等の回遊が見込める	街の情報を発信することにより、来街者の増加が見込め、歩行者通行量の増加が期待できる	市民、観光客など幅広い層が楽しみ、回遊性の向上が図れることから、歩行者通行量の増加が期待できる	観光客の増加により、回遊性を向上させ、歩行者通行量の増加が期待できる	高齢者や障がい者などの来街者の増加が見込める	来街者、特に観光客の増加により、歩行者通行量の増加が見込める	子育て世代などの来街が期待できる	多様な世代の来街が期待できる	来街者の滞留時間の増加が期待できる	
		カ. 中活計画エリア内における新規性 既存機能との重複の有無	10	高知市学生生活動交流館があるが、その他機能はみられない	チェントロ3階も含め、エリア内には誘致企業のオフィスが複数設けられている	周辺には大学や高校の他、産学官民連携センターが設けられている	街の情報を発信することにより、来街者の増加が見込め、歩行者通行量の増加が期待できる	市民、観光客など幅広い層が楽しみ、回遊性の向上が図れることから、歩行者通行量の増加が期待できる	ひろめ市場やとさでらす、てんこすなどが設けられている	タウンモビリティステーションや駐輪場が設けられている	よさこい情報交流館や日曜市休憩スペースが設けられている				12箇所の都市公園が設けられている
評価点		100	82.5	84.1	82.6	97.8	93.9	102.5	92.0	101.8	103.2	81.2	104.0		
総合評価			C	C	C	B	B	A	B	A	A	C	A		

※ ア、イ、ウの評価指数⇒ 1.2×当該機能の支持割合／1位の機能の支持割合  
 ※ エ、オ、カの評価 ⇒ ◎=1.2, ○=1.0, △=0.8